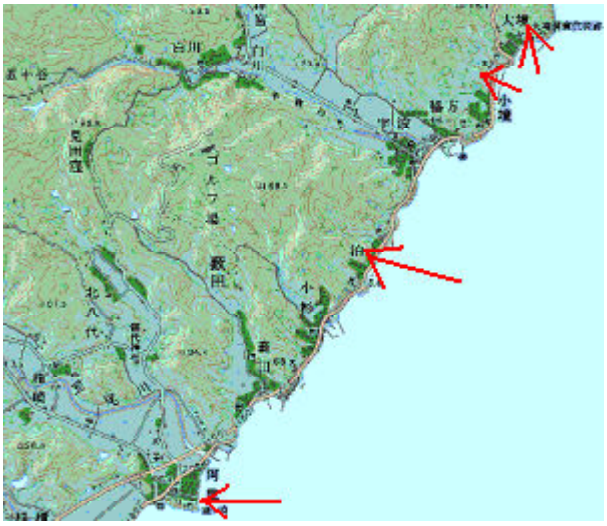
阿尾から大境にかけての氷見海岸

（氷見海岸南部）



　氷見市街地から北東方向に延びる氷見海岸沿いには、堆積岩の露頭が多く見られます。そのうち、南部の阿尾城周辺、泊の磯波風駐車場、大境海岸などで観察できる厚い地層は、今から600万年～200万年前ごろに海底で堆積した「藪田層」とよばれる地層です。

　この地層からは、おもに、「シルト」と呼ばれる砂岩と泥岩の中間的な大きさをもつ粒によってできた地層です。貝化石はあまり発見できず、化石掘りには適した層とは言えませんが、大量の石灰分を含んでいます。これは、化石有孔虫を大量に含んでいるためで、シルトを何度も水で洗って汚れを落としてから顕微鏡で見ると、多くの有孔虫を発見することができます。

　なお、海上に浮かぶ虻が島を形成している地層も藪田層にあたると考えられています。